ラカンマキ ［ 羅漢槙 ］

常緑／中高木／木本植物／在来種・変種

科　名　マキ科（APGⅢ）

特　記　生長：やや遅い、雌雄異株、針葉樹

イヌマキの変種といわれ、葉が短く生長はやや緩やか。イヌマキ同様生垣や仕立て物に利用されるが、細やかで密な仕上がりになる。雌雄異株で種子は雌株の果床(花托)の上につく。この果床は秋に赤く熟すると甘く食べられるが、松脂の匂いがする。寒さが苦手な暖地の樹。

葉

花

種子

生垣

Memo

漢字で「羅漢槙」。緑の種子と赤く熟した花床の様子を赤い袈裟をまとった羅漢に見立てた命名。

お手入れカレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
花　期					■	■	（観賞には向かない）					
果　実									■	■	■	
紅　葉												
施　肥		■	■									
剪　定					■				■	■		

好みの環境					
日当り	陽	○	○	◎	陰
土　壌	乾		○	○	湿
寒　さ	強			○	弱
暑　さ	強	○			弱
潮　風	強	○			弱

観賞ポイント	姿	花	葉	紅葉	黄葉	実	香
	○					○	

ポイント

萌芽力があり、刈り込みができ、潮風に強いことから、海岸地方では生垣や仕立物に利用される。風にも強く、防風林にもなる。仕立物は和風のイメージが強いが、生垣は和洋の区別なく利用できる。

剪　定

よく萌芽し枝を伸ばすので、２回／年ほど剪定する。刈り込むと切断部が黄色くなり見苦しい。放任すると樹形が乱れやすい。剪定の適期は５月と、９～１０月。寒さに弱いため、暖かい時期がよい。

病虫害

新芽にアブラムシがつきやすい。九州ではキオビエダシャク(シャクガ科)の幼虫がイヌマキとラカンマキの葉を食害し、ケブカトラカミキリの幼虫が樹皮の内部を食害する被害が増えている。

SEKISUI HOUSE
COPYRIGHT©SEKISUI HOUSE,LTD. ALL RIGHTS RESERVED.